令和6年　新春のごあいさつ

まちづくりの合言葉「魅力をつなぐ、笑顔一杯あふれるまち」

最上町長
髙橋　重美

新年あけましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より町政運営に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

今年は元日早々、能登半島地震が発生し、その翌日には羽田空港において航空機事故が発生するなど大変心が痛む思いであります。

あらためて災害は時と場所を選ばず突然襲ってくるものであり、危機管理の重要性を再認識したところでもあります。

この度の地震と事故により、お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の安全と一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

さて、昨年11月26日に、念願でありました道の駅「もがみ」がオープンしました。山形県の東の玄関口として、道路利用者へ安全・安心を提供するとともに、人の流れを町内外につなぐ道の駅としての役割を果たす拠点施設として期待するところであります。『最上（さいじょう）の「ある」を最大限に活かし、地域へつなぐ道の駅』というコンセプトのもと、「たのしいをつなぐ」道の駅、「やさしいをつなぐ」道の駅、「おいしいをつなぐ」道の駅としての魅力発信や交流人口の拡大、賑わいの創出に取り組んでまいります。

私は町長就任以来、首尾一貫して『自治協働のまちづくり』を政治理念に据えて、町政運営に臨んでまいりました。おかげさまを持ちまして、町民の皆さまが様々な機会、場面におきまして、自治と協働の理念のもと主体的に取り組まれており、誠に力強く感じております。

これまで経験したことのない人口減少による縮小社会が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることは誰しもが願うことであり、そのためにも町民の皆さまと行政の参画による『自治協働のまちづくり』の重要性は、今後ますます増してくるものと思われます。

急速に進む人口減少やコロナ禍がもたらした社会の変化など、こうした厳しい時代であるからこそ、人と人とが支え合い、つながりを大切にし、町民の一人ひとりが自分の役割を実感しながら、自信と誇りを持って活躍できるまちづくりに向けて、大いなる決意をもって臨んでまいる所存であります。

また、「第5次最上町総合計画」における理想とする将来像「明日今日よりもっと好きになれる最上町～笑顔が輝き住み続けたくなるまちへ～」の実現に向け、「楽しいね」「幸せだね」「安心だね」「豊かだね」「美しいね」「住みやすいね」の6つの基本目標を柱に、持続可能なまちづくりのための施策を展開してまいります。

更には、第2期地方創生戦略ビジョンでもあります「都市と地方の共生社会」が叫ばれる中、地方の果たす役割がますます大きくなってきております。これをチャンスと捉え、都会にない地方の魅力を発信し、つないでいくことで持続可能なまちづくりが図られるものと考えるところであります。

今年2月22日から24日まで、赤倉温泉スキー場を会場に「第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会アルペン競技」が開催されます。当町における最大の強みは何と言っても競技役員、スタッフが充実していることであり、全国的にも高い評価を得ております。現在、大会成功に向けて一丸となって着々と準備を進めているところですが、全国から来町される方々をおもてなしの心でお迎えし、選手をはじめ関係者の皆さまの思い出に残る、そして、多くの方々に夢と感動を与えられる大会となるよう万全を期してまいります。

また、今年9月1日に町制施行70周年を迎えます。この記念すべき節目を契機に、これまで当町が歩んできた歴史を振り返り、先人たちの英知とたゆみない努力によって今日の最上町があるというその重みを実感しながら、輝かしい未来へ踏み出す新たなスタートとしたいと考えております。

令和6年は辰年です。厳しさが続く社会情勢、経済情勢の中にあっても、昇り竜のように最上町も未来に向かってさらなる力強く飛躍できるよう、そして、私が掲げるまちづくりの合言葉であります「魅力をつなぐ　笑顔一杯あふれるまち」を次代につなげていくためにも、行政ニーズを的確に捉え、柔軟かつ適切に対応しながら、日々邁進してまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新年が町民の皆さまにとって、幸多い年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

明日今日よりもっと好きになれる最上町
笑顔が輝き住み続けたくなるまちへ